北海道停電、99%まで回復　新千歳空港は国際線再開

2018/9/8 8:20 (2018/9/8 13:54更新)｜日本経済新聞　電子版

北海道で震度７を観測した地震で道内全域に及んだ停電は８日正午現在、99%で復旧した。同日午前には新千歳空港で国際線発着も再開し、ＪＲも札幌市内などと空港を結ぶ快速エアポートが始発から通常通り運行するなど回復が進む。一方で他の在来線の復旧は遅れており、避難所には１万人超が身を寄せている。

安倍晋三首相は８日午前、北海道地震を受けた閣僚会議で「国として財政支援を講じる。予備費を準備する」と述べ、「生活物資に加え病院の自家発電機で用いる燃料などプッシュ型で供給していく」と語った。

国際線の運航が再開した新千歳空港の国際線ターミナル（８日午前）

北海道電力によると、道内295万戸のうち、８日正午現在で294万戸が復旧。残りは１万戸となったが、送配電設備の故障で電力を送ることができない区域が全道に点在し、全面復旧の時期は未定だ。

道内の高速道路のうち、道央自動車道など東日本高速道路会社が管理する道内路線は全区間で通行ができる。一方、北海道開発局が管理する日高自動車道の鵡川インターチェンジ（ＩＣ）―日高厚賀ＩＣ間（32キロ）は通行止めが続いている。

宅配便ではＳＧホールディングス傘下の佐川急便が８日から、北海道内での配達を一部で再開。ヤマトホールディングス傘下のヤマト運輸や日本郵政傘下の日本郵便も集荷を停止する一方、配達は道路事情などが許せば実施している。

道庁によると８日午前11時現在、地震で亡くなったのは19人で、心肺停止は11人。厚真町の９人の安否が不明になっている。負傷者は401人に上る。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.